

この度の東北関東大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
被災地の復興が一日でも早く進み、みなさんが安心して笑顔で暮らせる日々が一刻も早く戻りますことを心よりお祈り申し上げます。

谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)スタッフ一同

あすみっ子田んぼ・大椎っ子田んぼ 2010 感謝の会

昨年小山ではあすみが丘小学校と大椎小学校の2校の5年生が米づくりをしました。田植え、稲刈り、脱穀、そして草刈りまでみんなで力を合わせて作ったお米を学校で味わうことになり、米づくりや自然観察の指導をしてくださったYPPのスタッフや1年間田んぼの管理をしてくださった保護者の方々をお招きした感謝の会が5年生主催のもと行われました。その様子を報告します。

■あすみっ子田んぼ

(報告・江澤芳恵)

あすみ小の感謝の会は1月26日に行われました。アリーナ(体育館)に5年生全員と保護者やボランティアの方々あわせて100人以上が集まり、谷津田米で作ったカレーライスをみんなでいただきました。



100人以上のカレーをどうやって作るんだろうと興味津々でしたが食べてみるととってもgood! 先生いわく「ガス釜でごはんを炊いたらごはんが固くなってしまいました。」とのことでしたが、しっかり噛んで食べることで谷津田米のおいしさを十二分に堪能することができました。さてさて、100人以上のカレーを一体どうやって作ったのかと子どもたちに聞いてみたところ、例えば『3組はお米を炊くときの水かげんとカレーの味付け担当』というようにクラスごとに作業を分担し作ったとのこと。あすみ田んぼのお米作りの先生である金谷さんも、朝から家庭科室で5年生のみんなと一緒にカレー作りを手伝ってくださったそうです。

おいしいカレーをいただいた後はお話タイム。金谷さんは、地球の砂漠化が進んでいる中、5年生のみんながお米作りをしたことは砂漠化を少しでも防ぐことにつながった、と話してくださいました。自然観察の先生だった網代さんからは、世界にはその日のたべものに困っている人がたくさんいることやたべものをよく噛んで食べることの大切さについてのお話、そして、はじめて谷津田に行って、田植えや稲刈りのお手伝いをしてくださったお母さんからは、楽しかったとか気持ち良かったなどのうれしい感想も聞くことができました。

初めて田んぼに入ったときの感触や緊張しながら稲を刈ったこと、いろんな生き物に出会ったことなどとともに、今回のカレー作りと感謝の会のことも子どもたちの心のどこかに残ってくれたらいいなと思いながら、とてもうれしい気持ちで家に帰りました。おいしいカレーと心のこもった会をありがとうございました。



■大椎っ子田んぼ

(報告・松下恵美子)

大椎小学校は、学校行事の都合で3月8日～11日、1クラスずつ家庭科室で行われました。

去年の5年生(現6年生)が作ったお米が残っていたため、そのお米から麴をつくり、小山町産の大豆

とあわせ、去年の4月に5年生みんなで味噌をつくりました。その味噌で作った味噌汁とご飯といったシンプルな献立でしたが、お米の味、味噌の味をじっくり味わうことができました。子どもたちは、「ご飯がおいしい」と2杯、3杯おかわりしていました。

一方、感謝の会は、盛りだくさんの真心こもった内容でした。事前に5年生119人にアンケートを取り、その内容を発表してくれました。

- 1番楽しかったこと 1位田植え、2位自然観察、3位稲刈り
- 1番疲れたこと 1位草取り、2位稲刈り、3位田植え
- 1番難しかったこと 1位稲刈り、2位田植え、3位脱穀

田植えや稲刈りの大変さ、難しさを実感しつつも、それが楽しかったようです。次の「もっとやってみたいこと」という問いに対しても、田植え、稲刈り脱穀をあげていました。その他にも「昔の農具を使って米作りをしたい。」や、「機械を使っての米作りをしたい。」などの意見もあり、農具や、機械にも感心があるようです。また、たくさんの生き物について学べたためか、「1年を通じて、谷津田の自然観察をしたい。」という意見もありました。

最後に「大椎っ子田んぼでの学習をどう生かしていきたいか。」という質問に対しては、「お米を作る苦労がわかったので、残さず食べたい、食べ物を大切にすることを生活に生かしたい。」「谷津田の生き物を保護し大切にしていきたい。」「ごみを捨てない、生き物を取らない。」といった意見がたくさん出ました。なかには、「おばあちゃんの田んぼの手伝いをしたい。」「ボランティアとして田んぼの手伝いをしたい。」といった心強い意見も出してくれていました。

また、「みんなで協力して、大変な事を乗り越えたので、自信を持ちたい。」と心の支えとしてこの体験を捉えてくれている子もいました。大人になったときにでも、みなさんの心の中に米づくり体験が少しでも残っていてほしいと願っています。

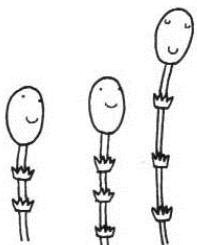
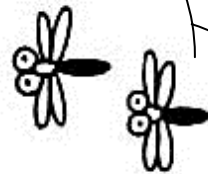
感謝の会では、各クラスで歌も披露してくれました。あるクラスでは、「学園天国」の歌詞をアレンジし、担任の先生がギター片手に生徒とみなで歌ってくれました。心のコもったこの歌詞を掲載し、大椎っ子田んぼ感謝の会の報告とします。ぜひ、みなさんも歌ってみてください！

♪谷津田天国♪

やーっだいてっ おーこめづくり
あいつもこいつも このときを ただ ず〜っと待っていたんだよ
5年になるとできる お米作りをー
あー みんなドキドキさー
あー 谷津田 楽しみだ Oh Yeah
泥の中 初めてだよ ぬるぬるする やわらかいな とても楽しいいいい〜
お米作りのこの時を ただず〜っと 待っていたんだよ
谷津田に来た ぼくたちは 米作りの とりこ〜

やーっだいてっ おーこめづくり
青空の下の 草刈りや あの 楽しい 生き物観察も
胸はずませ やっていた 谷津田は 楽しい〜
あ〜 わからないことは〜
あ〜 金谷さんに聞こう Oh Yeah
稲刈り〜で 鎌 使ったよ このぼくに できるかな ドキドキしたぜ〜
フェスタで発表した時も みんなきてくれたんだよ
感謝祭にも来てくれて とてもうれしいよー

Thank You!!





里山たんけんレポート

第134回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2011年3月6日(日) 晴れ

下流部沼まで、冬季から早春までの定例コースを巡りました。

可憐で目立った花はオオイヌノフグリで、今が盛りと咲いていました。セイヨウタンポポは地面に張り付くようにして咲き、早くも種になったものは花茎を伸ばし、種を飛ばしている姿も見られました。葉に食痕のあるギシギシにはコガタリハムシが見られました。

ウグイスやシジュウカラは囀っていましたが鳥の声は断片的に聞こえる程度でした。そんな中でカシラダカはブッシュの陰から次々に飛び出す姿がたくさん見られました。

ニホンアカガエルの卵塊はほとんどが孵りオタマジャクシになっていました。新しい卵塊はほとんど見当たりませんでした。

谷津を一巡した後、生育段階の違うものを実顕微鏡で観察しました。孵ったばかりのオタマジャクシは鰓が外に出ている様子が良くわかりました。

(参加者 大人11名、子ども4名； 報告：網代春男)

第64回 小山町 YPP「学校たんぼづくり」

2011年3月13日(日) 晴れ

昨 year 地元の方のたんぼをお借りして米づくりをした地元あすみが丘小学校が今年も長年稲作を止めている休耕田をたんぼに戻して米づくりをすることになりました。学校の先生方、保護者の皆さんや地元中学校の生徒さんたちが集まって、開墾作業をしました。

長い間使われていなかったたんぼはあし原になっていて、様々な雑草の根が表面を厚く張り巡らされています。たんぼに戻すには堅い根を切って土を掘り起こして崩し、柔らかくしないとイケません。1回に30センチ四方くらいのおさなかたまりしか起こせないのが大変な作業です。でも、参加した皆さん



はやる気いっぱい！力仕事を楽しむように和気藹々

(あいあい)、おしゃべりをしながらにぎやかに開墾をしました。起こしているとニホンアカガエルが土の中から飛び出してきてびっくり！産卵した後、再び冬眠していたのを目覚めさせてしまったようです。ごめん、ごめん。ウグイスはまだ心許ない声ですが応援歌を聴かせてくれます。皆さんの力で1/4くらいの面積を起こし終えることができました。

(参加者：大人14名、小中学生7名、幼児2名 報告：高山邦明)

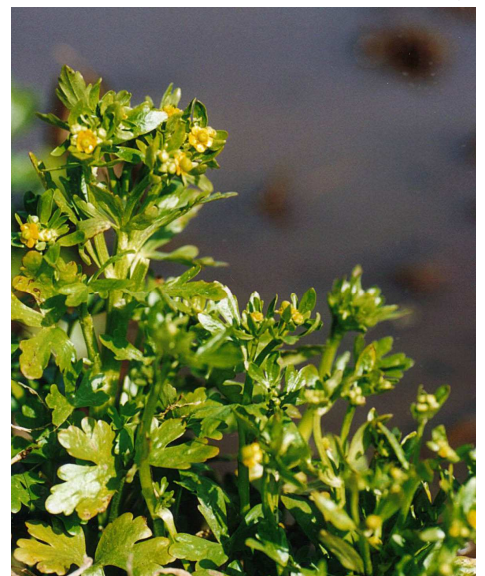
(東北関東大震災を配慮し、3月の下大和田 YPP「味わおう！春の谷津田」は中止とさせていただきます。)

谷津田いきもの図鑑 No. 49

タガラシ

冬場はたんぼに平たく丸く葉を広げて寒さに耐え(このスタイルを「ロゼッタ」と呼びます)、3月頃、そこから急に背をもたげて葉を広げて黄色い花を咲かせます。花はケキツネノボタンによく似ていますが、大きく3つに裂けている葉や花びらに光沢があるのが特徴で、水のあるたんぼの中を好んで生えることでも区別できます。葉をかむと辛い味がするので「田辛し」と呼ばれているようですが、キンポウゲ科に共通する有毒アルカロイドのプロトアネモニンを体全体に含んでいるので要注意。花が終わると細

長い丸形の種ができ、熟すとバラバラにはじけて小さな種がたくさんたんぼの水面に浮かびます。ケキツネノボタンは種がトゲトゲなところも違います。タガラシは谷津田のような湿田にしか繁茂できないので、最近は数が減っているようです。栄養が少なくて米の収量が少ない湿田に生えるので「田枯らし」という説もあるようですが、谷津田の場合はそんなことはないですね。



(高山邦明)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 3月13日 田んぼでアカガエルの小さなオタマジャクシやメダカが泳ぎ、斜面林の縁でウグイスがさえずり、タチツボスミレが咲く。田んぼからクサシギが飛び立つ(高山)。
3月18日 冷え込んで田んぼに氷。ケキツネノボタンが開花(高山)。
3月26日 斜面林で芽吹きが始まり、イヌシデやキブシが開花。畦ではヘビイチゴが咲き始める(高山)。
3月27日 朝は田んぼに氷が張る寒さだったが、暖かい日差しに誘われてシュレーゲルアオガエルが弱々しく鳴く(高山)。

下大和田

- 4月1日 季節の巡りが遅いようでフデリンドウやクサイチゴはまだ咲いていない。シュレーゲルアオガエルの合唱も聞けなかった。カワセミ2羽が活発に活動しており、ペアになっている様子。下流部の沼の所の小川にはオンドリが♂3羽、♀2羽がいた(網代)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼下大和田 YPP 第119回「苗代づくり」・第120回「田起こし」・第121回「田植え」

いよいよ今年の米づくりのスタートです。今年も昨年同様、コシヒカリと古代米の両方を一緒に田植えします。春から初夏のさわやかな陽気の谷津で、苗代づくり、田起こし、田植えの一連の作業に気持ちの良い汗を流してみませんか? 小さなお子さんも参加できますよ。

日時: 苗代づくり 2011年4月9日(土)

田起こし 2011年5月7日(土)

田植え 2011年5月14日(土): 予備日15日(日) いずれも10:00~14:00 小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴(長め、できればホームセンターで販売している田植え用長靴)、軍手、敷物など。

参加費(資料代等): ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第136回 下大和田5月の谷津田観察会とごみ拾い

初夏の妖精のようなニホンカワトンボやシオヤトンボが飛び交う頃です。ヤマサナエの羽化が見られるかも知れません。田んぼ、小川、U字溝の生きものを観察します。

日時: 2011年5月1日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田YPPに同じ)

集合: 下大和田YPPに同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

▼第65回 小山町 YPP「苗代づくり・学校田んぼづくり」

田植えに向けて、田んぼの一角に苗代を作ってコシヒカリのモミを撒きます。また、3月に続いて、休耕田を開墾して地元小学校が米づくりをする田んぼ作りをします。小さなお子さんも参加できますのでぜひご家族でいらして下さい。

日時: 2011年4月10日(日) 10:00~12:30 *小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 飲み物、長靴(長めがいいです)、帽子、軍手、敷物、もしあればスコップ。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 春先の気温が低かったせいか、本格的な春の訪れが遅れていましたが、ようやく林の木々が芽吹き、谷津田の畦にはたくさんの草花が開きはじめました。田んぼではアカガエルのオタマジャクシやメダカたちが暖かな日差しを浴びて気持ちよさそうに泳いでいます。命がわき出すように生まれ、動き出す春本番です。春の息吹が震災で被害を受けた皆さんの心に元気を呼び起こす源となってくれることを期待したいです。

(高山 邦明)